

新丸山ダム建設事業

事業の目的

- ・ 新丸山ダム建設の目的は以下の3つ。

①洪水調節

ダム地点の計画高水流量毎秒6,800m³のうち、毎秒2,100m³の洪水調節を行う。

②既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流水の確保

木曾川沿川の既得取水の安定化及び河川環境の保全等のために必要な流水としての容量1,500万m³を確保する。

③発電

関西電力株式会社の既設丸山・新丸山発電所において、新たな1,500万m³の貯水容量の確保により最大出力22,500kwを増電させ、最大出力210,500kwの発電を行う。



新丸山ダム完成予想図



丸山ダム

事業の経緯

・新丸山ダム建設の経緯



補償基準妥結調印式 (H4. 3)



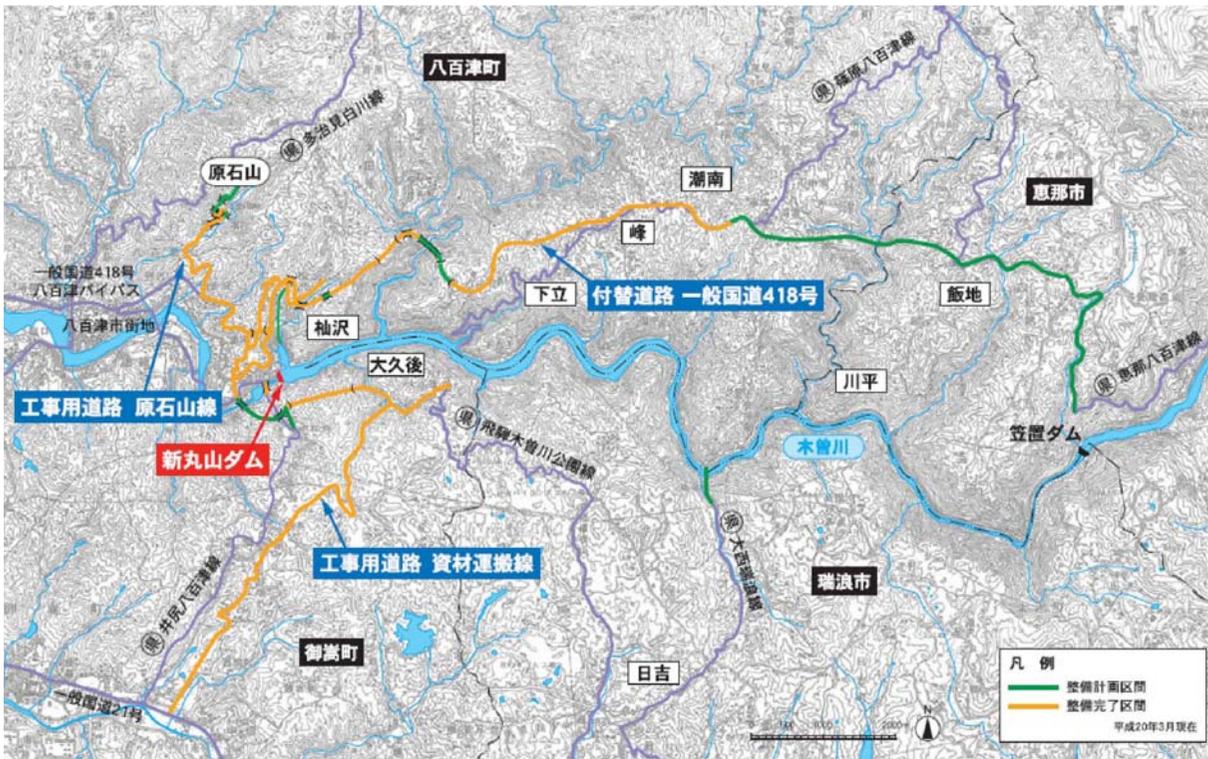
新旅足橋下部工完成 (H19. 2)

1956	昭和31年3月	丸山ダム完成
1980	昭和55年4月	実施計画調査着手
1983	昭和58年9月	台風10号による大災害（美濃加茂市等災害）
1986	昭和61年4月	建設事業着手
1990	平成2年5月	新丸山ダム基本計画決定
1992	平成4年3月	新丸山ダム補償基準妥結調印式
1992	平成4年8月	水没地用地買収に着手
1994	平成6年1月	水源地域整備計画決定
2000	平成12年12月	家屋移転補償契約が49戸全て完了
2003	平成15年7月	中部地方整備局事業評価監視委員会にて事業の継続が了承される
2005	平成17年6月	新丸山ダム基本計画変更（第1回）告示
2007	平成19年3月	付替国道418号新旅足橋上部工工事着手
2008	平成20年3月	工事用道路資材運搬線完成
2008	平成20年3月	木曾川水系河川整備計画策定

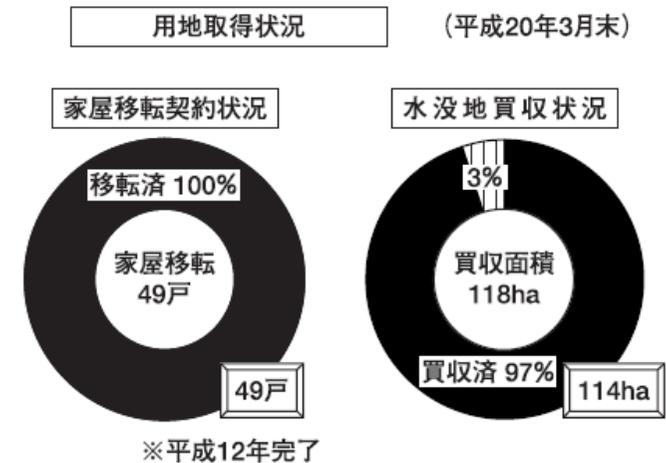
事業の進捗状況

- 新丸山ダム建設に伴う用地補償は、新たに貯水池となる用地の約97%を取得済み。家屋移転補償は全て完了。
- ダム本体工事の準備工である付替国道418号線は約52%、資材運搬線は約93%、原石山線は約84%の進捗率。

■主要道路の整備状況



■進捗率



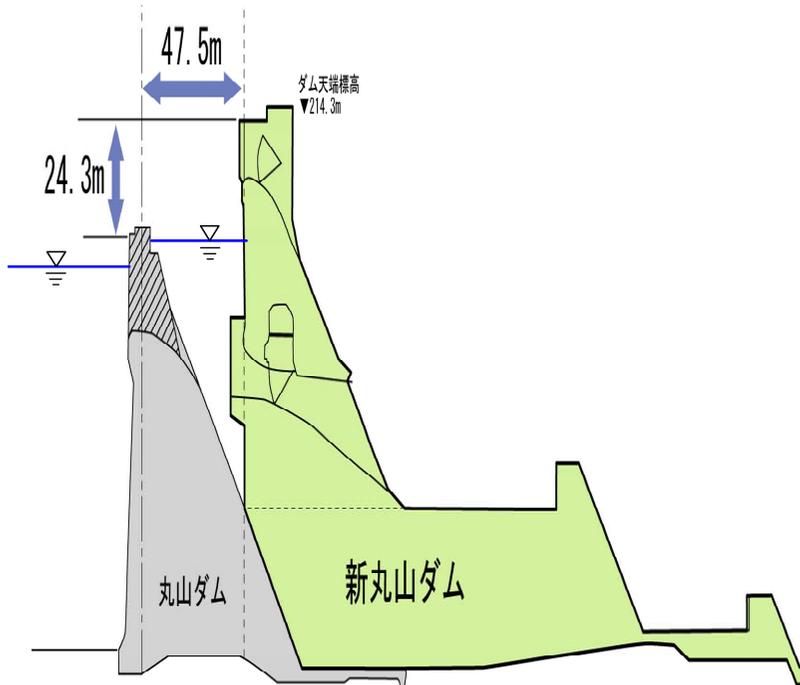
主な道路工事の整備状況

付替道路	一般国道418号	約52%
工事用道路	資材運搬線	約93%
	原石山線	約84%

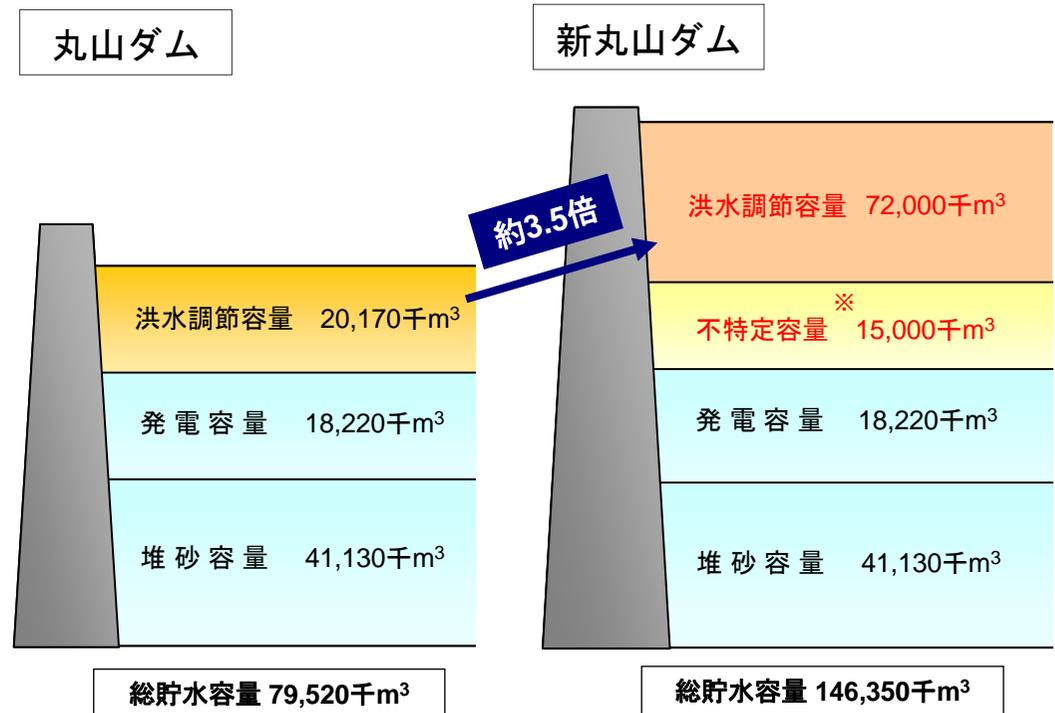
新丸山ダム案

- 新丸山ダムは、既設丸山ダムの下流47.5mの位置に、24.3m嵩上げして建設し、新たに6,683万m³の容量を確保。

■ダム標準断面図



■貯水容量配分図

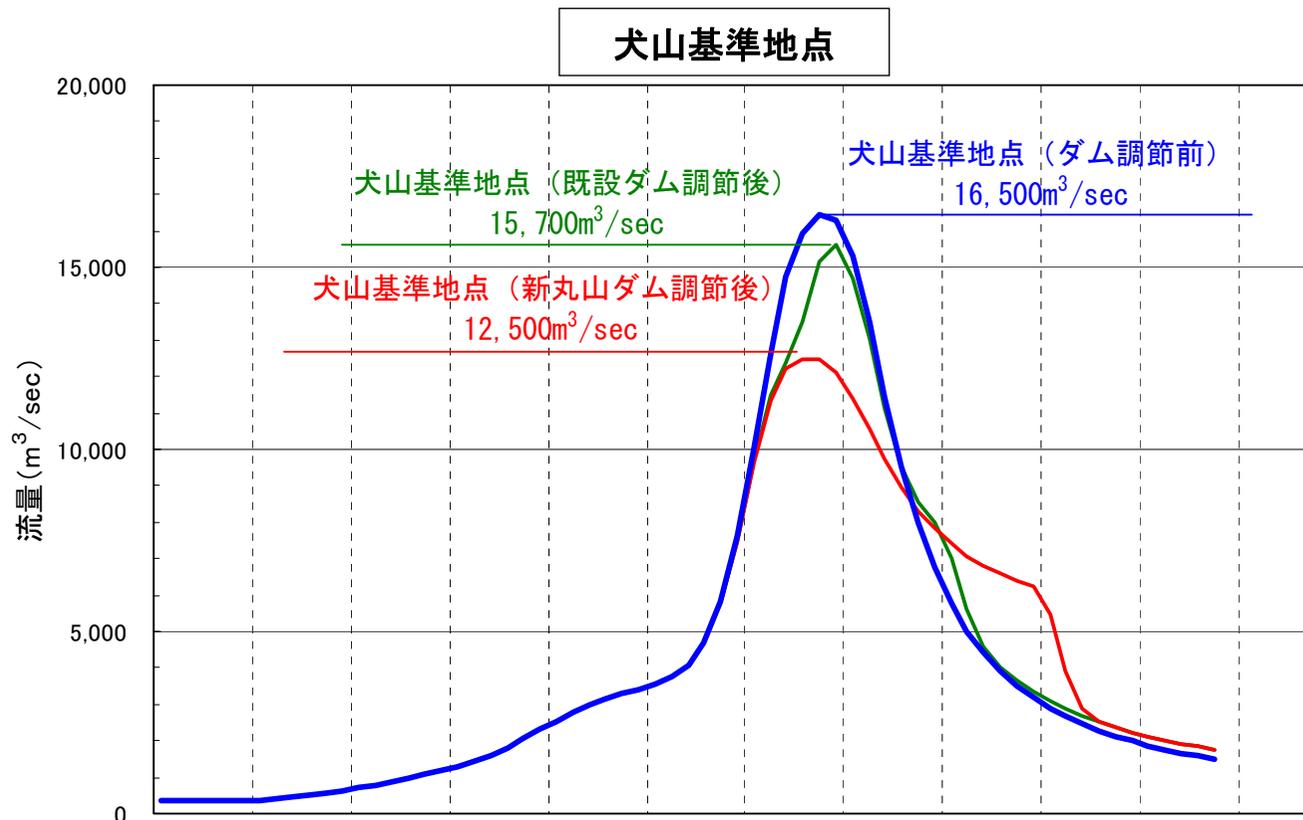


※ 不特定容量…既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流水の確保のための容量

河川整備計画の洪水調節計画

- 新丸山ダム建設と河道の整備により、河川整備計画の目標である昭和58年9月洪水を安全に流下させる。

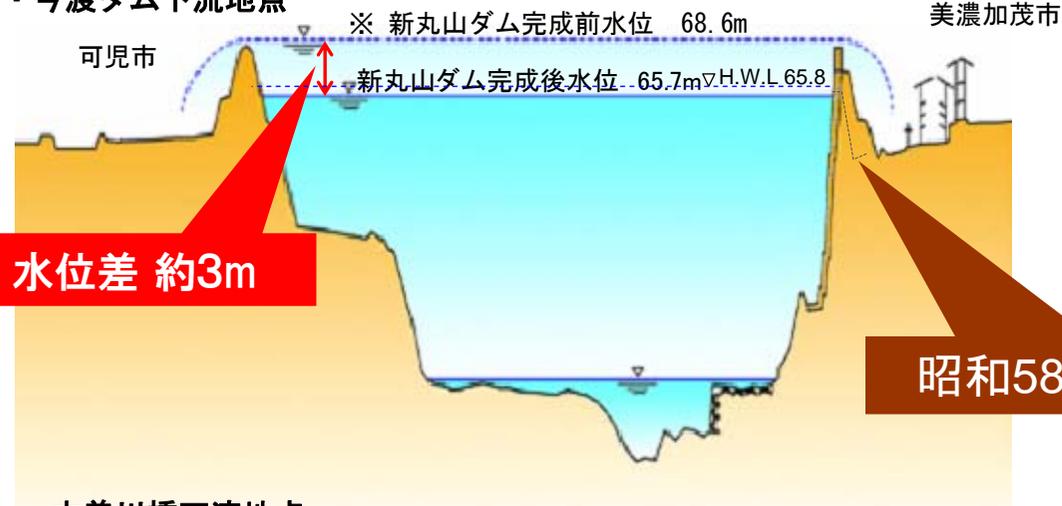
河川整備計画目標流量				
基準地点	対象洪水	ダム調節前ピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
犬山	昭和58年9月洪水	16,500m ³ /sec	4,000 m ³ /sec	12,500m ³ /sec



河川整備計画に対する治水上の効果

- 新丸山ダムの洪水調節効果(試算)は、美濃加茂市の今渡ダム下流地点で約3m、一宮市の木曾川橋下流地点で約1.5mの水位低下効果。

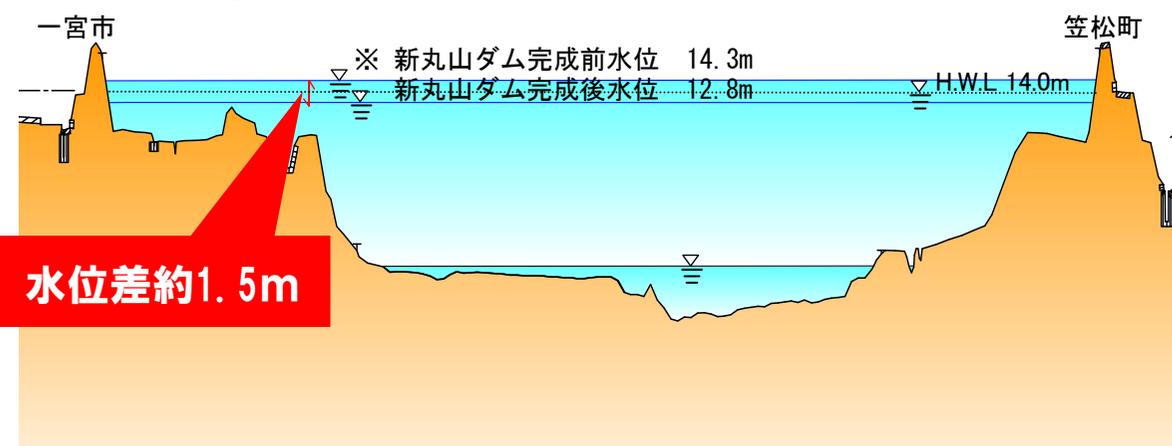
・今渡ダム下流地点



※新丸山ダム完成前水位68.6mは、木曾川の既存ダム(岩屋、阿木川、味噌川、丸山ダム)の洪水調節後の水位

対象洪水:昭和58年9月(実績規模)
検討断面:67.0k、平成14年度測量横断

・木曾川橋下流地点



※新丸山ダム完成前水位14.3mは、木曾川の既存ダム(岩屋、阿木川、味噌川、丸山ダム)の洪水調節後の水位

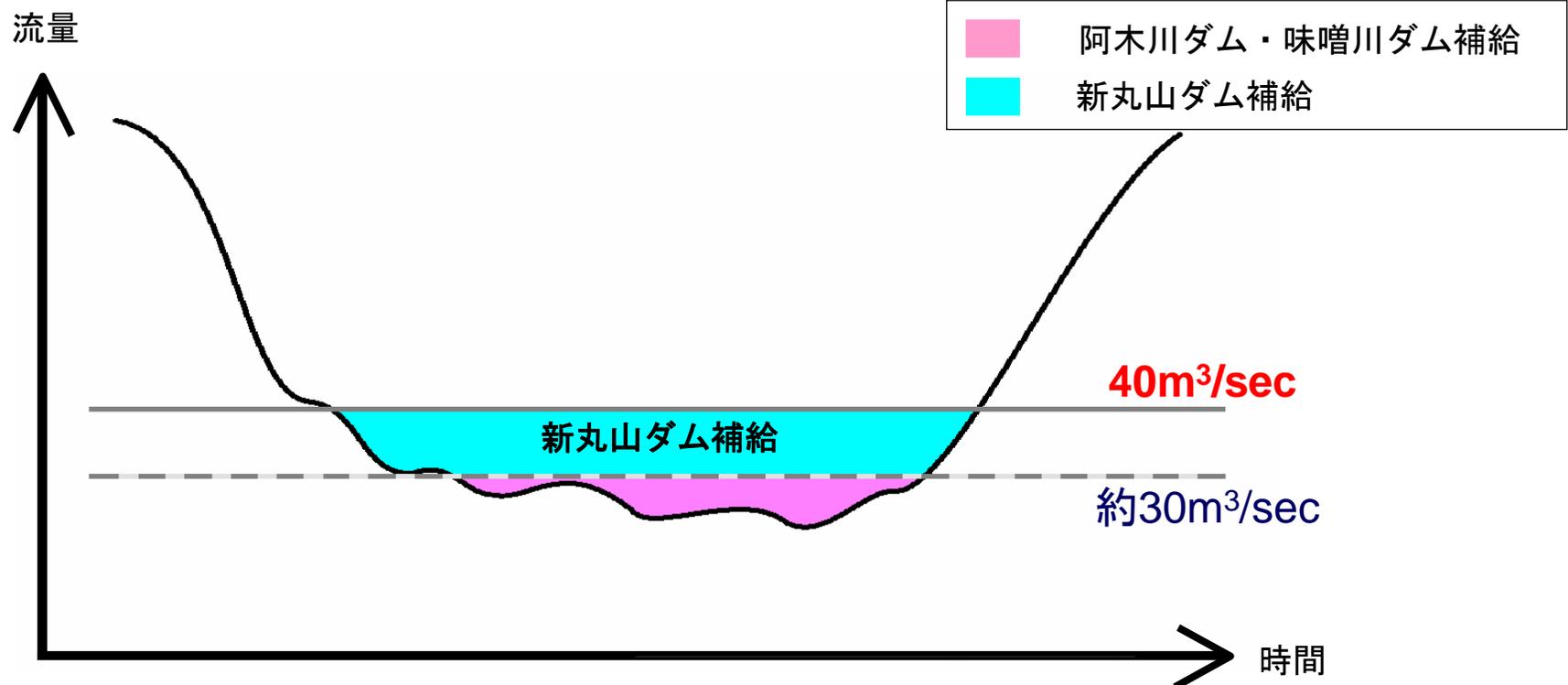
対象洪水:昭和58年9月(実績規模)
検討断面:39.6k、平成14年度測量横断

不特定補給計画

- 新丸山ダム建設により、1,500万 m^3 の不特定容量を確保し、1/10規模の渇水時においても、既設阿木川ダム及び味噌川ダムの不特定補給と合わせて既得取水の安定化を図り、木曾成戸地点において河川環境の保全のために必要な流量の一部である40 m^3/sec を確保。

既設の阿木川ダム・味噌川ダムにより、木曾成戸地点で約30 m^3/sec の流量を確保

さらに新丸山ダムにより、40 m^3/sec までの流量を確保



発電

- 新丸山ダム建設により生ずる発電落差の増、最大6.5mを利用して、最大出力22,500kwの発生電力量を増強。

丸山ダム

新丸山ダム

